

## 7. 青谷海岸

### 7.1 概要

青谷海岸は、西に明神崎、東に夏泊漁港が位置し、両端を岬で挟んだポケットビーチとして位置づけられている。中央には勝部川があり、当海岸の土砂供給に寄与している。

近年、漁港の整備に伴い、遮蔽域への土砂の引き込みが顕著となっており、海岸域では汀線が後退している。平成26年度の冬季風浪では、「鳴り砂の浜」で有名な、井手ヶ浜に大きな浜崖が生じ、現在、対策のため、基礎調査および試行的な養浜等を実施しているところである。



図 7.1.1 井手ヶ浜で発生した浜崖状況（平成26年12月撮影）

### 7.2 対策実施状況

#### 7.2.1 施設整備状況

- ・勝部川河口導流堤整備 昭和40年代

#### 7.2.2 土砂投入量実績

平成20年以降の土砂投入は、以下のとおりである。



図 7.2.1 青谷海岸におけるサンドリサイクル

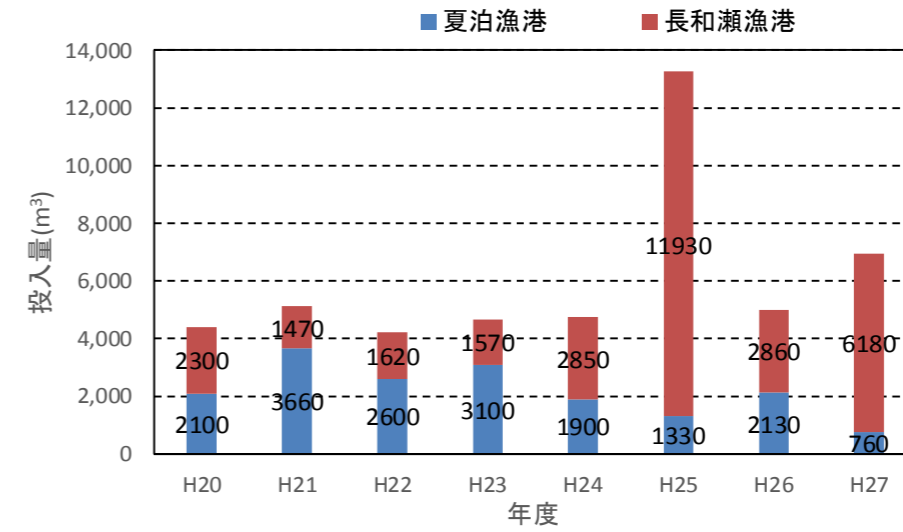


図 7.2.2 青谷海岸における土砂投入量（採取場所別）

当海岸の井手ヶ浜は『鳴り砂の浜』として有名であることから、侵食対策については「質」の観点から、養浜土砂を決定する必要がある。

平成27年度に「鳴り砂にかかる基礎調査」を実施した上で、平成28年度は試行的に勝部川河口の砂を利用して養浜を実施しているところである。



図 7.2.3 井手ヶ浜試行的養浜状況 (H28.7月撮影)

#### 【現在の井手ヶ浜「鳴り砂」への対応状況】

- ① 周辺海岸、周辺漁港の「砂の特性調査（鳴き砂の特性把握）」の実施  
粒径調査、強熱減量試験、鉱物組成試験を実施（H27実施）
- ② 漂砂方向の調査  
井手ヶ浜の砂が、どこに流れるのかを確認するため、蛍光砂による漂砂調査の実施。（今後も継続実施）
- ③ 養浜の試行  
・上記調査結果を踏まえ、関係機関・地元へ合意の元、井手ヶ浜海岸に試行的に陸上養浜を実施（H28.6実施）

### 7.3 評価分析

#### 7.3.1 汀線変化分析

空中写真（鳥取県立博物館）及び汀線測量データ（平成 16 年基準）により、青谷海岸の汀線変化を分析した。

##### 【長期的な汀線変化傾向】

（汀線測量による分析）

- ・（平成 16 年基準ではあるが）井手ヶ浜で侵食傾向がみられる。（コメント①）
- ・青谷海岸東側（No.39～No.41）でも、侵食傾向が確認される。（コメント②）
- ・平成 28 年は井手ヶ浜の東側（No.18～No.24）で、侵食傾向が確認される。また、西側は若干ではあるが、前進している。（コメント③）

（空中写真による分析）

- ・勝部川流路変更に伴う導流堤延伸により、河口に溜まっていた土砂が流出し、河口を中心に全体的に汀線の後退がみられる。（図 7.3.5, 表 7.3.1）
- ・平成 15 年以降は、西側で最大 20m 程度の前進、東側が最大 50m 程度の後退傾向となっている。全体的には平均 20m 程度の後退となっている。（図 7.3.6, 表 7.3.2）



図 7.3.1 現地写真（平成 28 年 10 月撮影）



図 7.3.2 現地写真撮影地点

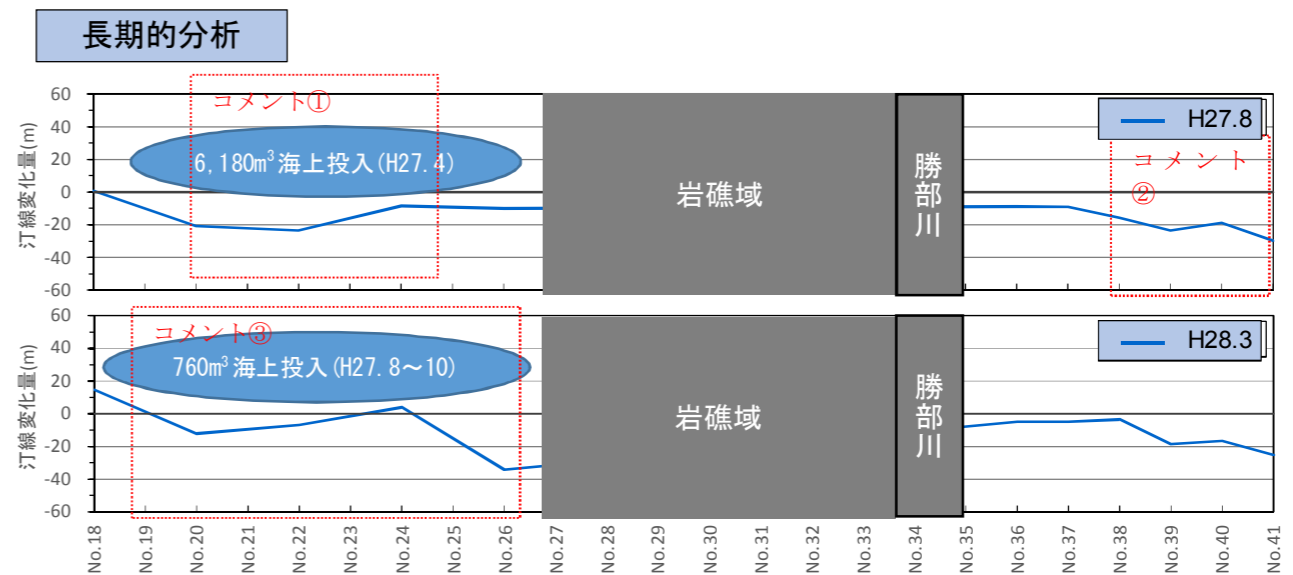


図 7.3.3 青谷海岸の近年の汀線変化状況図(平成 16 年 9 月測量基準)

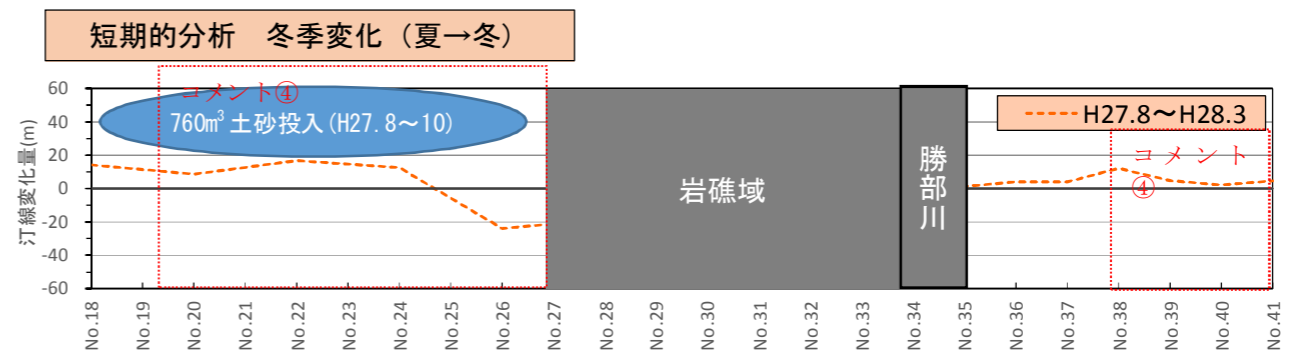


図 7.3.4 青谷海岸の短期の汀線変化状況図

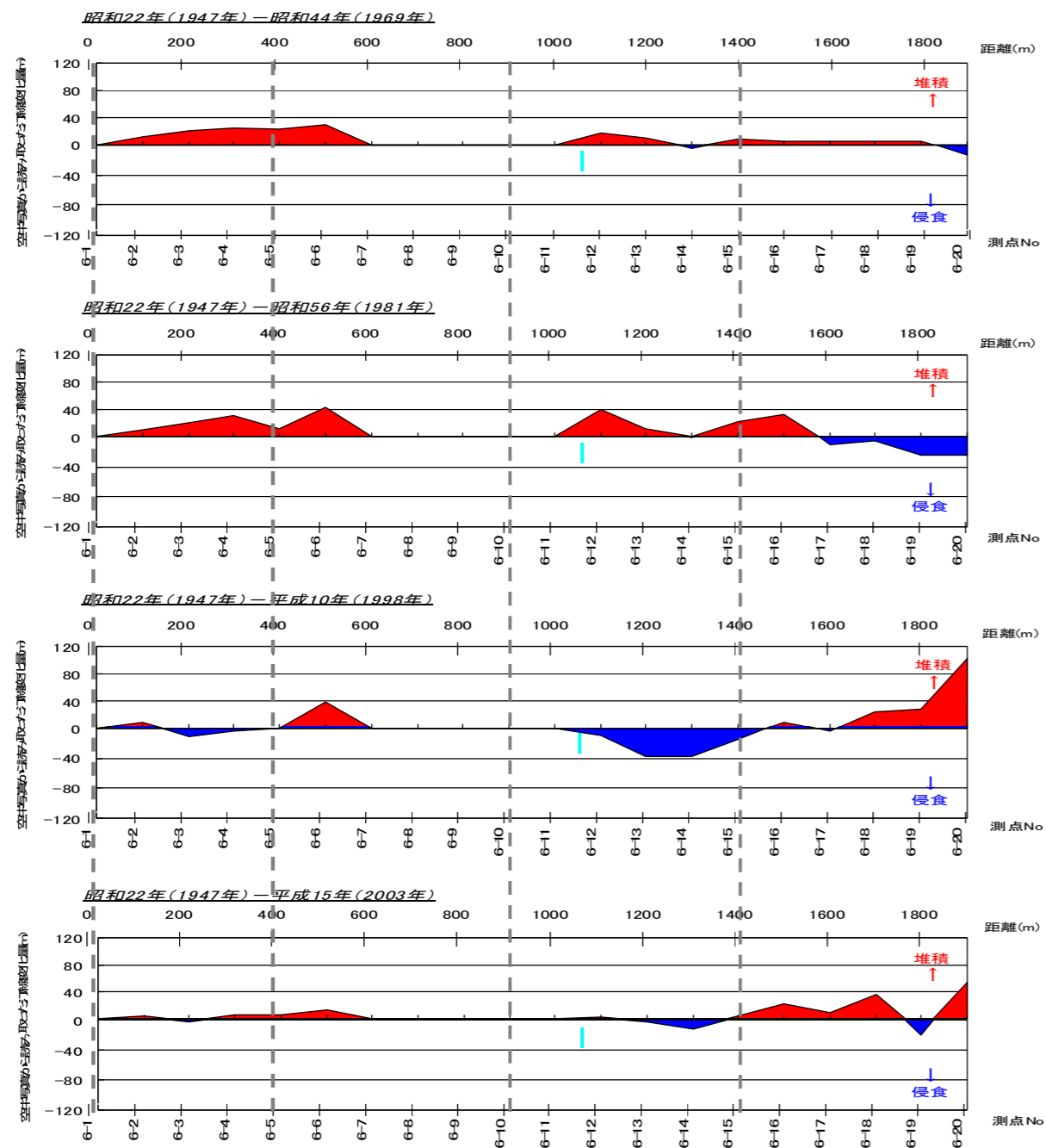


図 7.3.5 青谷海岸の長期的な汀線変化状況図(1/2)

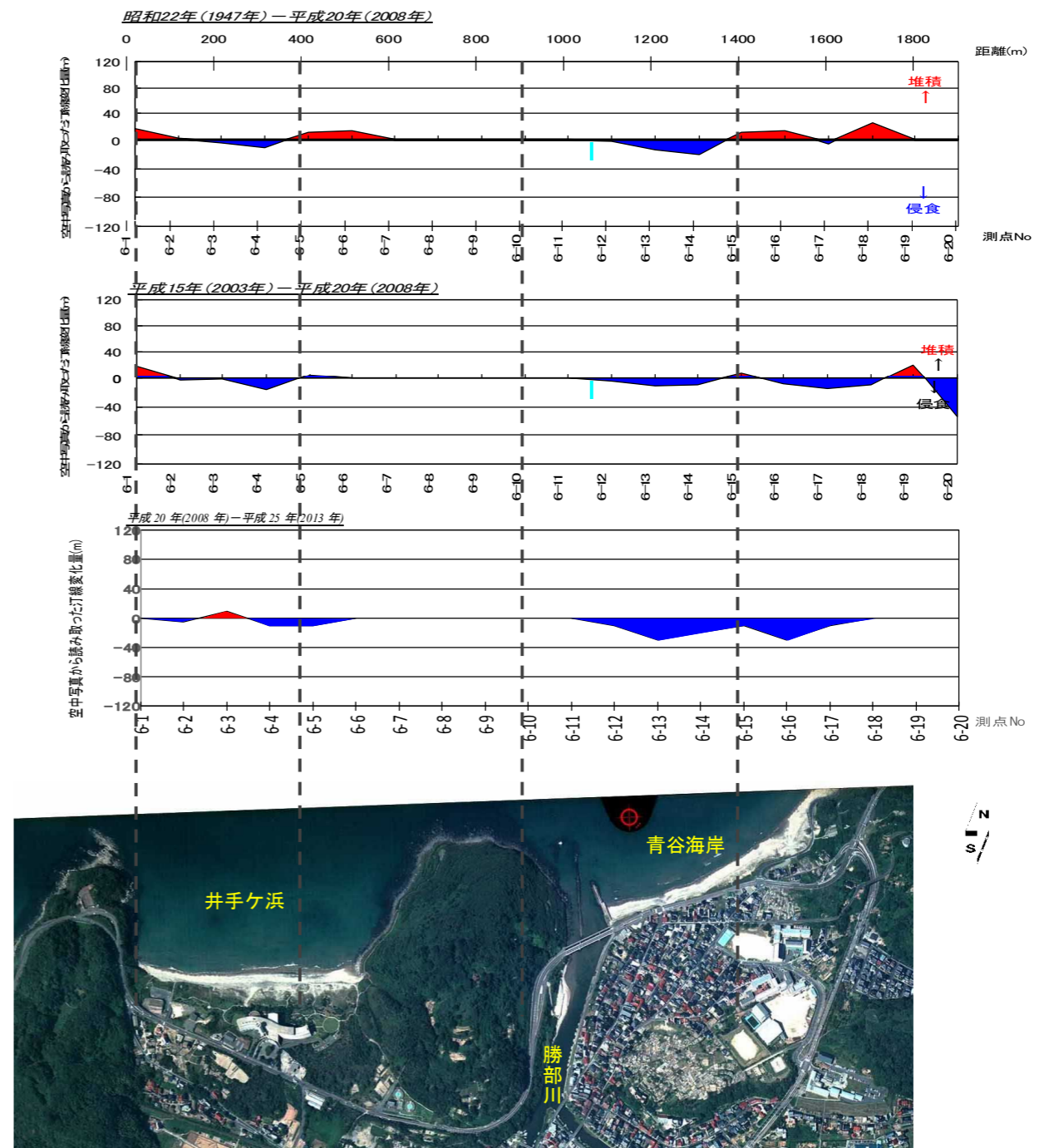


図 7.3.6 青谷海岸の長期的な汀線変化状況図(2/2)

表 7.3.1 空中写真による汀線変化の整理表：青谷海岸（1/2）

	空中写真	考察
昭和22年（1947）		ポケットビーチを形成し、安定している。
昭和44年（1969）		西側ポケットビーチでは明神崎東側で一部汀線が後退している。一方、丸山崎東側では前進している。
昭和56年（1981）		勝部川右岸側の2本の導流堤防間にあった土砂が東側ポケットビーチへ移動し、汀線が前進している。
平成10年（1998）		勝部川の流路変更に伴い、河口堆積土砂が流されてなくなり、東側ポケットビーチの一部が後退している。

表 7.3.2 空中写真による汀線変化の整理表：青谷海岸（2/2）

	空中写真	考察
平成15年（2003）		東側ポケットビーチは後退していた箇所が回復し、安定汀線を形成している。
平成20年（2008）		東側の海岸侵食が若干、進行傾向にある。
平成25年（2013）		東側、西側ともに海岸侵食が進行傾向にある。

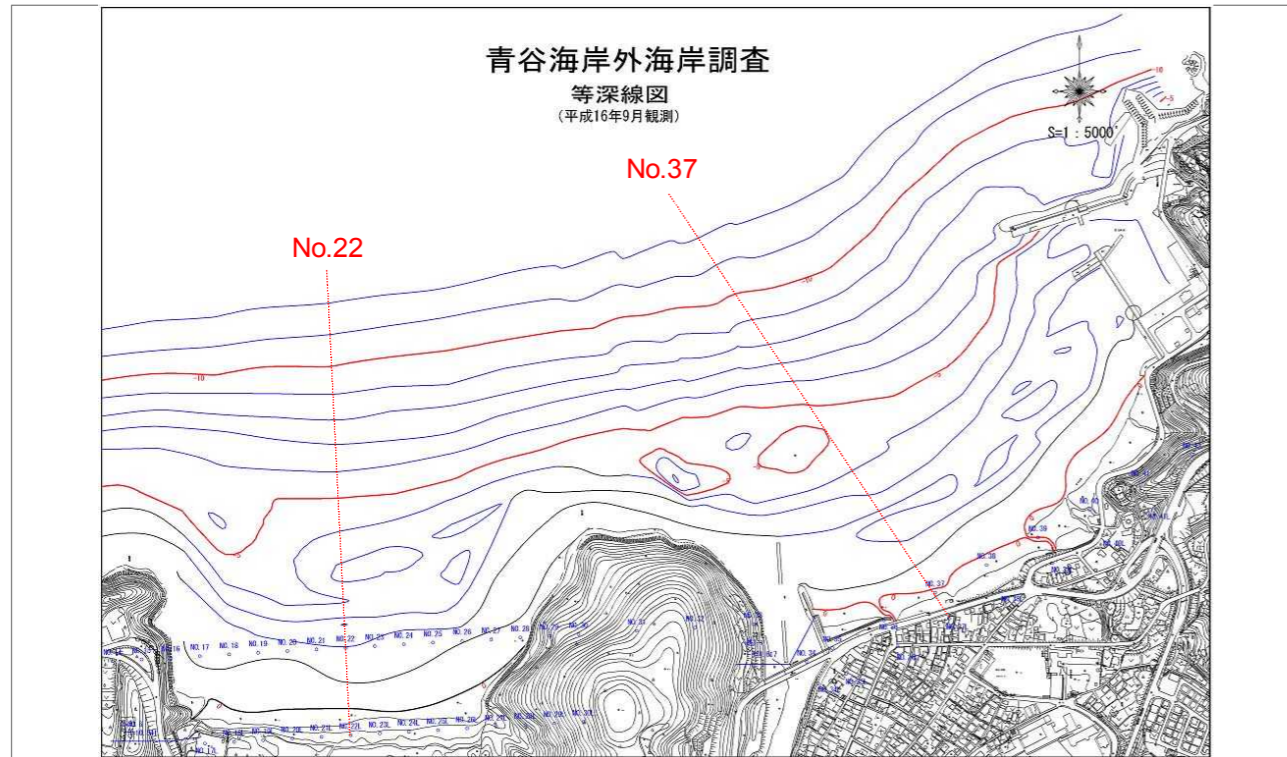


図 7.3.7 等深線図 (平成 16 年度)

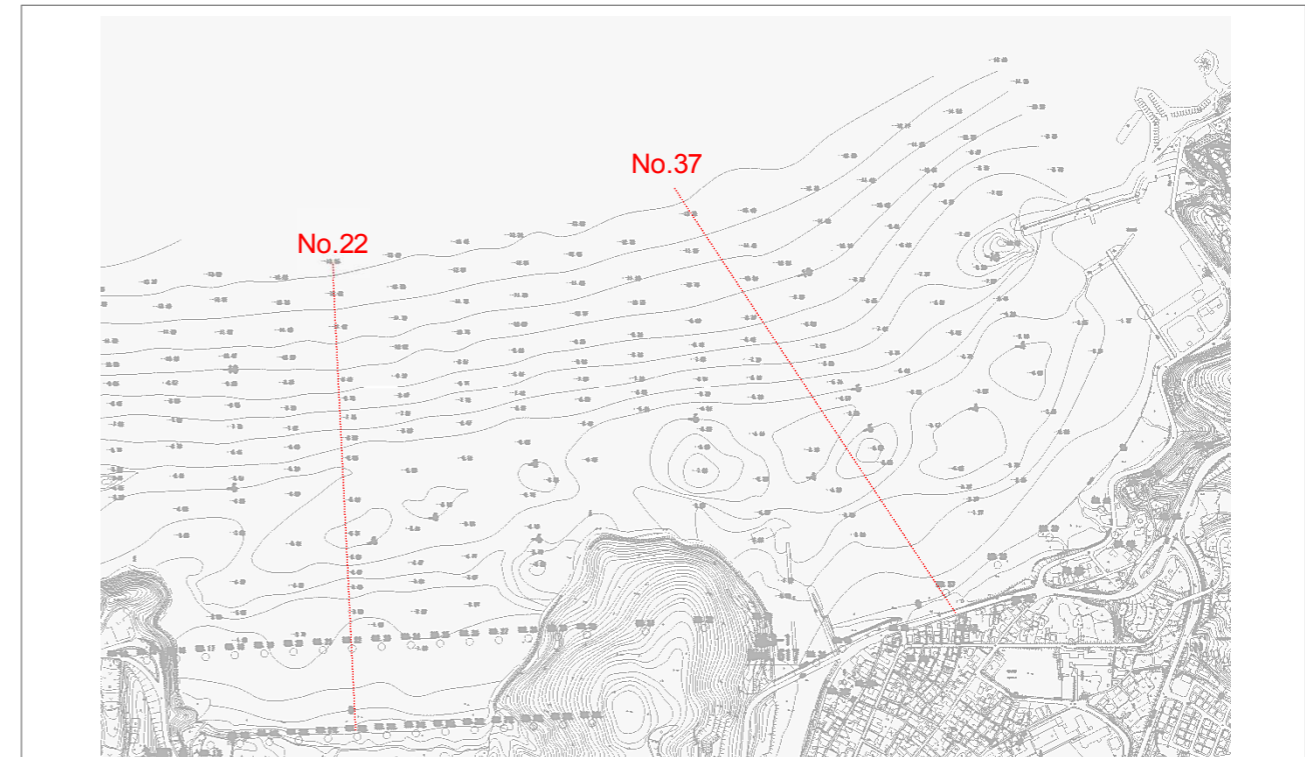


図 7.3.9 等深線図 (平成 27 年度)

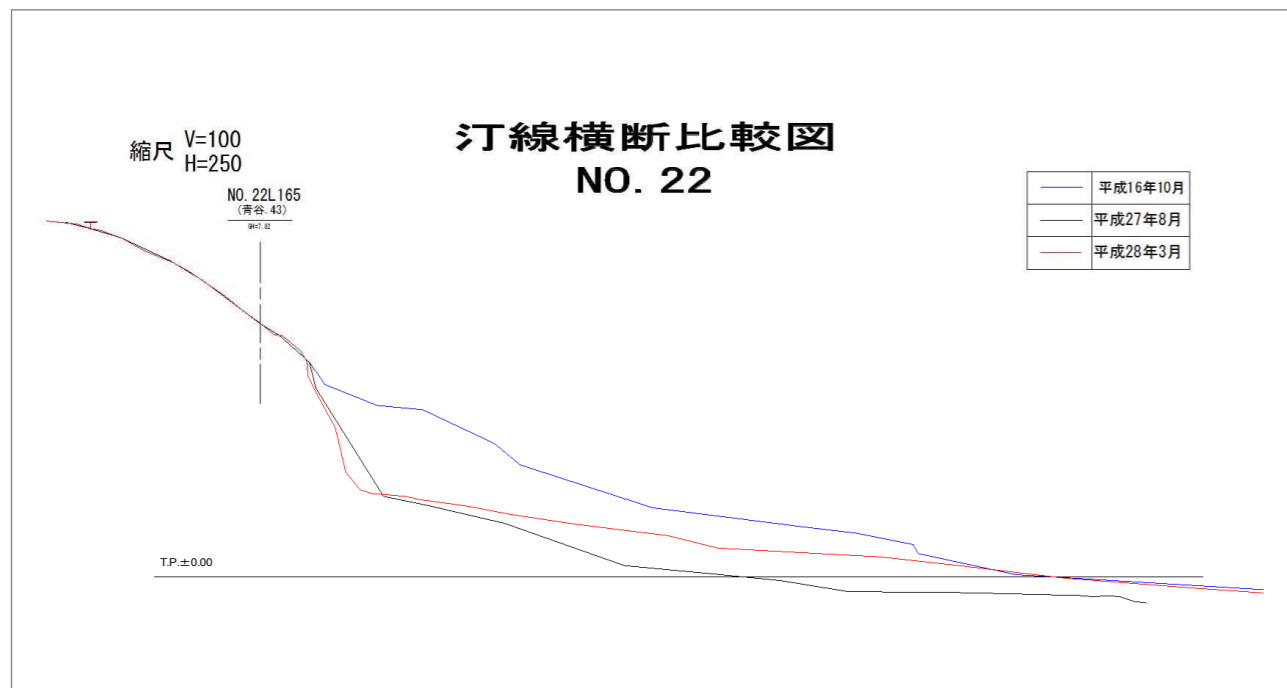


図 7.3.8 汀線横断比較図 (No.22)

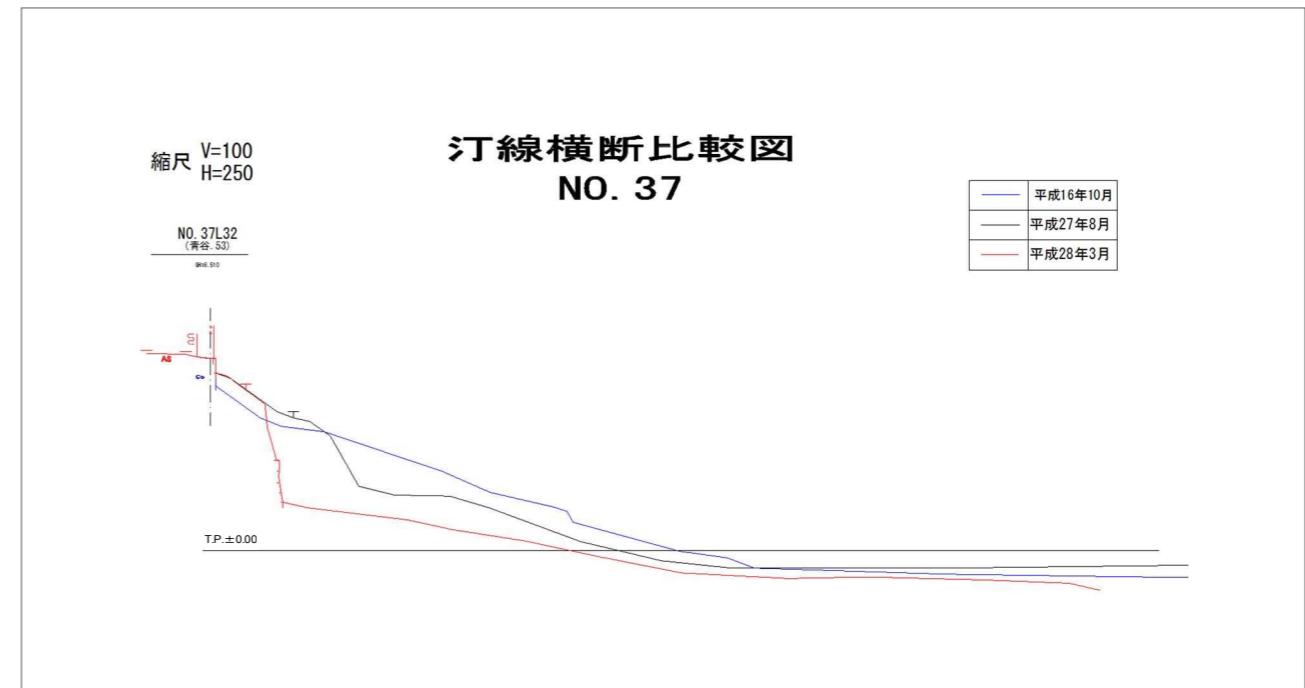


図 7.3.10 汀線横断比較図 (No.37)

---

#### 7.4 問題点および今後の方針

- ・ 近年は冬季風浪のたびに浜崖が発生しており、引き続き注視が必要。特に平成27年度は、井手ヶ浜丸山崎付近の侵食が顕著であり、状況を注視していく必要がある。
- ・ 当海岸は「鳴き砂」という特性があり、慎重な対応を求められるところではあるが、科学的な見地を整理し、井手ヶ浜への土砂投入量を増加していきたい。